

中河内水辺だよりクイズー長瀬川・玉串川編ー

- 春の足音が近づいてきました。
 - 今回の水辺だよりでは、中河内地域を代表する**農業用水路**『長瀬川・玉串川』を取り上げます。
 - 長瀬川、玉串川は柏原市、八尾市、東大阪市域を流れ、長さは約14 kmあります。
 - 今から300年以上前、1703年に大和川がつけかえられたのち、その跡地を利用してつくられました。（大和川のつけかえについては、水辺だより第2号を見てください。）
 - それから現在まで大切に使われ、地域の人々にとって身近な水辺として親しまれてきた、歴史ある水路です。
- これからクイズ形式でこの水路について紹介しますので、ぜひ挑戦してください！



では、スタートです！

長瀬川・玉串川編 問題①

長瀬川・玉串川の水は、ずばり、何に使われているでしょう。

- ① 洗たく用の水
- ② 飲み水
- ③ 田んぼや畑の作物を育てるための水



ヒント

この水辺だよりの1枚目を
よーく見てください。

答え

③ 田んぼや畑の作物を育てるための水

長瀬川・玉串川は、農業用水路として地域の田んぼや畑に必要な水を配っています。

中河内地域の特産農産物であるえだまめや若ごぼう（葉ごぼう）、その他の野菜やお米を育ててくれているのですね。



若ごぼうの畑

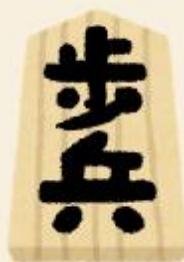


えだまめ

長瀬川・玉串川編 問題②

長瀬川・玉串川の水は大和川から取水していますが、
水を取水するためのこの施設は何と呼ばれているでしょう。

- ① は
- ② ひ
- ③ ふ



ヒント

例えば、下の写真の施設です。

築留二番「○」（つきどめにばん○）
といいます。

どれがじっくりくるでしょうか。



答え

② ひ (樋)

「樋 (ひ)」は、河川やため池から用水を導いたり、排水を河川に落水させるための施設のことをいいます。用水の量 (位) や排水の量 (位) を調整するためにあわせてつくられた門は樋門 (ひもん) といいます。

写真の築留二番樋 (つきどめにばんひ) は1888年につくられたもので、国の登録有形文化財になっています。大和川から長瀬川に直接水を取水しており、レンガを使用した珍しい施設です。柏原市の大和川治水記念公園の真下にあります。ぜひ見に行ってみてください。



築留二番樋



長瀬川・玉串川編 問題③

春になると、長瀬川・玉串川はある植物で美しく彩られ、多くの人が景色を楽しみに訪れる、地域の名所となっています。この植物は、次のうちどれでしょう。

- ①梅（うめ）
- ②桜（さくら）
- ③ひまわり



ヒント

3月下旬～4月上旬にかけて
咲く植物といえば・・・？

答え

② 桜（さくら）

玉串川では、昭和40年ごろから周辺住民が協力して植えた桜の木が成長し、春には約1000本のソメイヨシノが約5kmにわたって水路をアーチ状に美しく囲みます。

「大阪ミュージアム登録物」「大阪みどりの100選」のひとつとして有名になっています。



玉串川と桜

次回の「中河内水辺だより」は・・・
長瀬川・玉串川は、その歴史や地域発展への貢献などが評価され、2018年（平成30年）8月に「世界かんがい施設遺産」として登録されました。

この「世界かんがい施設遺産」について次回、紹介します。

「私の水辺」
推進協議会中河内委員会